マルチメディア
ユーザ ガイド

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP 製品およびサービスに関する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

初版：2007 年 7 月

製品番号：440774-291

このガイドについて

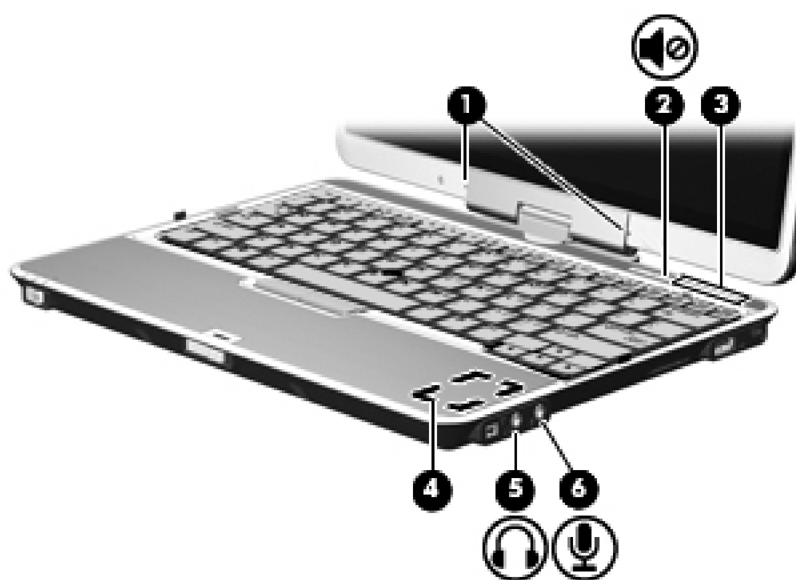
このユーザ ガイドでは、ほとんどのモデルに共通の機能について説明します。一部の機能は、お使いのコンピュータで対応していない場合もあります。

目次

1　マルチメディア ハードウェアの使用

オーディオ機能の使用

次の図と表で、お買い上げのコンピュータのオーディオ機能について説明します。



名称		説明
(1)	内蔵マイク（×2） **注記：**　一部のモデルでは、装備されている内蔵マイクは 1 つのみです。	サウンドを録音したり、ビデオ会議および VoIP（Voice Over IP）用のサウンドを送信できます
(2)	ミュート ボタン	コンピュータのサウンドを消音（ミュート）したり元に戻したりします
(3)	音量スクロール ゾーン	スピーカの音量を調整します ● 音量を下げるには、音量スクロール ゾーンで指を右から左にスライドさせます。また、音量スクロール ゾーンの左半分をタップまたは押すこともできます ● 音量を上げるには、音量スクロール ゾーンで指を左から右にスライドさせます。また、音量スクロール ゾーンの右半分をタップまたは押すこともできます
(4)	スピーカ（コンピュータの裏面）	サウンドを出力します

名称		説明
(5)	オーディオ出力（ヘッドフォン）コネクタ	市販の電源付きステレオ スピーカ、ヘッドフォン、イヤフォン、ヘッドセット、テレビ オーディオなどを接続します
(6)	オーディオ入力（マイク）コネクタ	市販のコンピュータ用ヘッドセットのマイクまたはモノラル マイクを接続します

オーディオ入力（マイク）コネクタの使用

コンピュータには、ステレオ アレイまたはモノラル マイクをサポートするステレオ（デュアル チャネル）のマイク コネクタが装備されています。マイクを接続して録音ソフトウェアを使用すると、ステレオ録音が可能になります。

マイクをマイク コネクタに接続する場合、3.5 mm プラグのマイクを使用してください。

オーディオ出力（ヘッドフォン）コネクタの使用

⚠ **警告！** 突然大きな音が出て耳を痛めることがないように、音量の調整を行ってからヘッドフォン、イヤフォン、またはヘッドセットを使用してください。

△ **注意：** 外付け機器の損傷を防ぐため、モノラル チャネル コネクタをヘッドフォン コネクタに差し込まないでください。

ヘッドフォンの接続に加え、ヘッドフォン コネクタは外部電源付きスピーカやステレオ システムなどのオーディオ デバイスのオーディオ入力機能の接続にも使われます。

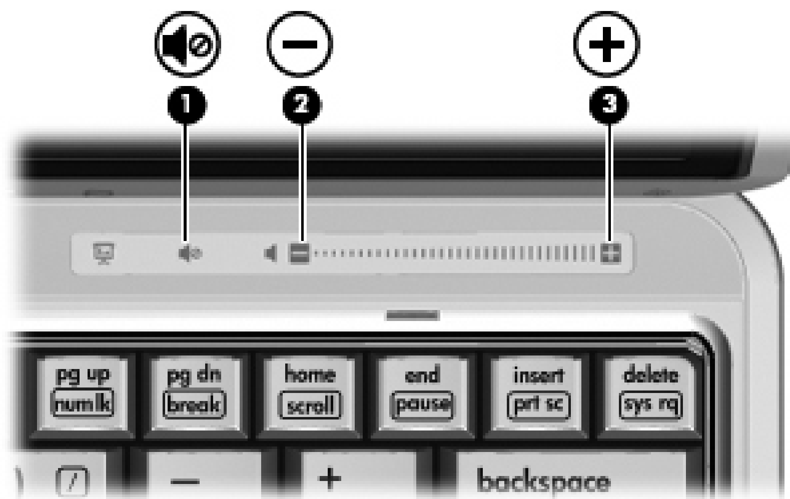
ヘッドフォン コネクタへの接続には 3.5 mm のステレオ プラグ以外は使用しないでください。

ヘッドフォン コネクタに機器を接続すると、スピーカは無効になります。

音量の調整

音量の調整には、以下のどれかを使用します。

- コンピュータ本体の音量ボタン：
  - 消音したり音量を元に戻したりするには、ミュート ボタン（**1**）を押します。
  - 音量を下げるには、音量スクロール ゾーン（**2**）で指を右から左にスライドさせます。また、音量スクロール ゾーンの左半分をタップまたは押すこともできます。
  - 音量を上げるには、音量スクロール ゾーン（**3**）で指を左から右にスライドさせます。また、音量スクロール ゾーンの右半分をタップまたは押すこともできます。



- Windows®の[ボリューム コントロール]：

  a. タスクバーの右端にある通知領域の**[音量]**アイコンをクリックします。

  b. スライダを上下に動かして、音量を上げたり下げたりします。**[ミュート]**アイコンをクリックして、音量を消音します。

  または

  a. 通知領域の**[音量]**アイコンを右クリックし、**[音量ミキサを開く]**をクリックします。

  b. **[ボリューム コントロール]**列で音量スライダを上下に動かして、音量を上げたり下げたりします。**[ミュート]**アイコンをクリックして消音することもできます。

  [音量]アイコンが通知領域に表示されない場合は、以下の手順に従って表示します。

  a. 通知領域で右クリックし、**[プロパティ]**をクリックします。

  b. **[通知領域]**タブをクリックします。

  c. [システム]アイコンの下の**[音量]**チェックボックスにチェックを入れます。

  d. **[OK]**をクリックします。

- プログラムの音量調整機能：

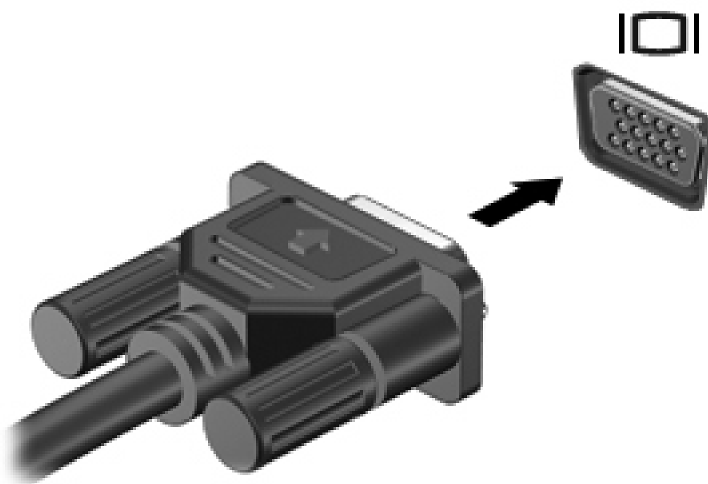
  プログラムによっては、音量調整機能を持つものもあります。

ビデオ機能の使用

外付けモニタ ポートの使用

外付けモニタ ポートは、外付けモニタやプロジェクタなどの外付けディスプレイ デバイスをコンピュータに接続するためのポートです。

▲ ディスプレイ デバイスを接続するには、デバイス ケーブルを外付けモニタ ポートに接続します。



注記： 正しく接続された外付けディスプレイ デバイスに画像が表示されない場合は、fn + f4 キーを押して画像をデバイスに転送します。fn + f4 キーを繰り返し押すと、表示画面がコンピュータ本体のディスプレイと外付けディスプレイ デバイスとの間で切り替わります。

カメラの使用（一部のモデルのみ）

一部のコンピュータ モデルには、ディスプレイの上部にカメラが内蔵されています。さまざまなソフトウェアと共にこのカメラを使用すると、以下のような機能を使用できます。

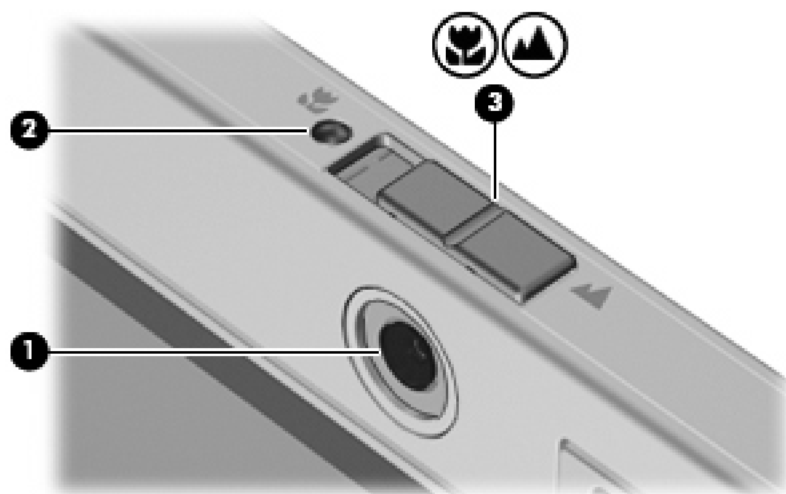
- ビデオのキャプチャ
- インスタント メッセージ ソフトウェアを使用したビデオのストリーミング
- 静止画像の撮影

注記： 内蔵カメラに対応するソフトウェアの使用方法については、そのソフトウェアのヘルプを参照してください。

パフォーマンスを最適にするために、内蔵カメラを使用するときには次のガイドラインに従ってください。

- ビデオ チャットを行う前に、インスタント メッセージ プログラムが最新のバージョンであることを確認してください。
- 一部のネットワーク ファイアウォール間では、内蔵カメラが正しく動作しないことがあります。他の LAN またはネットワーク ファイアウォール外の人との間でビデオの表示や送信に問題がある場合は、インターネット サービス プロバイダに問い合わせてください。
- できる限り、カメラの背後の画面領域の外に明るい光源を置いてください。

カメラ コンポーネントの位置



名称		説明
(1)	カメラ	ビデオを録画したり、静止画像を撮影したりします
(2)	カメラ ランプ	点灯：カメラでビデオをストリーミングまたは録画しています
(3)	カメラ モード スイッチ	• スイッチを左にスライドすると、カメラはマクロ モードになります。マクロ モードで使用される焦点距離は約 10 cm で、近接画像の撮影に適しています • スイッチを右にスライドすると、カメラは通常モードになります。通常モードで使用される焦点距離は約 50 cm で、カメラからの距離が標準的な範囲内にある画像の撮影に適しています

カメラのプロパティの調整

以下のようなカメラのプロパティを調整できます。

- [輝度]：画像に組み込まれる光の量を制御します。輝度の設定が高いほど画像が明るくなり、低いほど暗くなります。
- [コントラスト]：画像の明るい領域と暗い領域の差を制御します。コントラスト設定が高いほど画像を強めます。低くなると元の情報のダイナミック レンジの大部分が保持されますが、画像は平らになります。
- [色相]：ある色を他の色と区別する色の印象を制御します（色を、赤、緑、青などとするもの）。色相は色彩とは異なります。色彩とは色相の強度を測定したものです。
- [色彩]：最終的な画像の色の強度を制御します。色彩の設定を高くするほど力強い画像になり、低くするほど繊細な画像になります。
- [シャープネス]：画像の端の定義を制御します。シャープネスの設定を高くするほどはっきりした画像になり、低くするほどソフトな画像になります。
- [ガンマ]：画像の中レベル グレーまたは中間調に影響を与えるコントラストを制御します。画像のガンマを調整すると、シャドーとハイライトを大幅に変更しないで中範囲のグレー トーンの輝度の値を変更できます。ガンマ設定が低いほどグレーは黒のようになり、暗い色はさらに暗くなります。

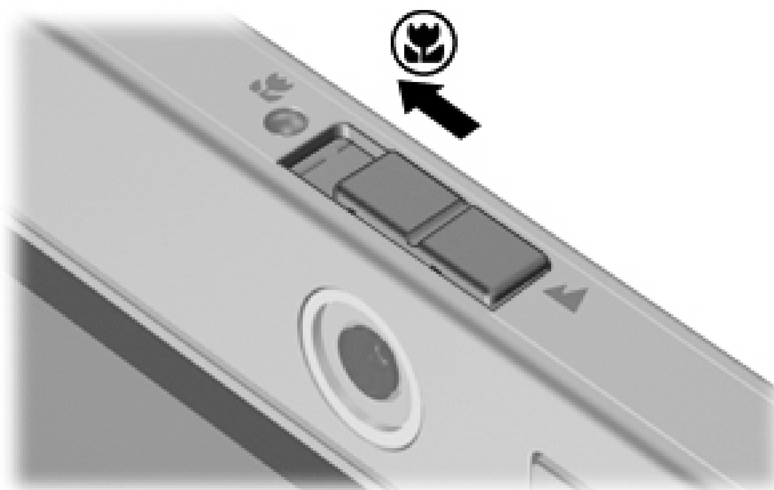
[プロパティ]ダイアログ ボックスは、内蔵カメラを使用するさまざまなプログラムから、通常は構成、設定、またはプロパティ メニューを使用して表示できます。

名刺画像の取り込み

カメラと Presto! BizCard プログラムを組み合わせて使用すると、名刺画像を取り込んで、Microsoft Outlook 連絡先などの各種のアドレス帳ソフトウェアにそのテキストをエクスポートできます。

名刺画像を取り込むには、以下の手順で操作します。

1. カメラ モード スイッチを左にスライドし、カメラをマクロ モードにします。



2. **[スタート]**→**[すべてのプログラム]**→**[NewSoft]**→**[Presto! BizCard]**→**[Presto! BizCard]**の順に選択して、Presto! BizCard を起動します。
3. 1 枚の名刺の画像を取り込むには、**[File]**（ファイル）→**[Snap One Card and Recognize]**（1 枚のカードの画像を取り込んで認識）の順に選択します。

   -または-

   複数の名刺の画像を取り込むには、**[File]**→**[Snap Cards and Recognize]**（複数のカードの画像を取り込んで認識）の順に選択します。

   [Preview]（プレビュー）ウィンドウが開きます。

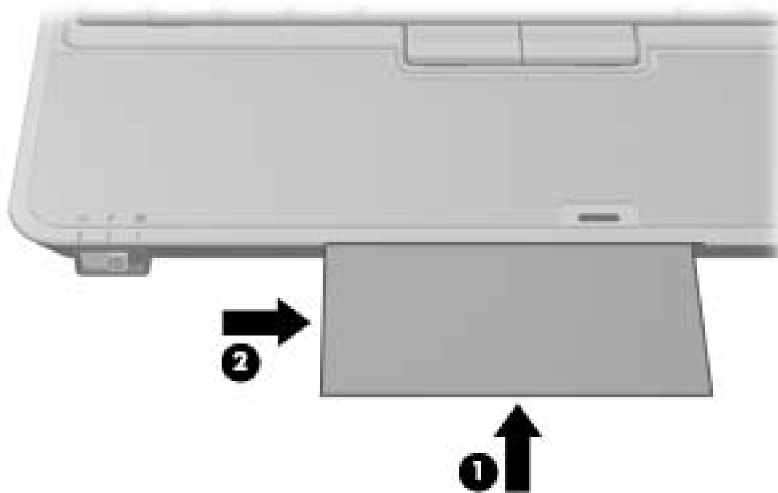
4. ディスプレイを、カメラ ランプ（**2**）の点滅が停止してサウンドが聞こえるまでゆっくりと傾けます（**1**）。



これで、カメラの焦点が合った状態になります。

5. コンピュータの前面にある名刺スロットに名刺を挿入し（**1**）、名刺を右方向に動かして（**2**）カメラの位置に合わせます。

注記：　名刺の下端にある文字がスロットの影になっていないことを確認します。どうしても文字がスロットの影になってしまう場合は、名刺を 180 度回転させてください。



カメラが名刺の画像を取り込むと、カメラ ランプは消灯します。

6. 複数の名刺の画像を取り込んでいる場合は、撮影済みの名刺を取り出し、別の名刺を挿入します。カードに焦点が合うと、カメラ ランプが点灯します。カメラが名刺の画像を取り込むと、カメラ ランプは消灯します。

この手順を、残りの名刺に対して繰り返します。

7. 1 枚以上の名刺の画像取り込みが完了したら、スロットから名刺を取り出してディスプレイを元の位置まで立ち上げ、カメラ モード スイッチを通常モードに戻します。

8. Presto! BizCard によって取り込まれたデータを表示して、すべてのデータが取り込まれたことを確認します。

Presto! BizCard について詳しくは、ソフトウェアのヘルプを参照してください。

2　マルチメディア ソフトウェアの操作

注記：　オプティカル ディスク（CD および DVD）を使用するには、別売の HP 2700 Ultra-Slim 用拡張ベースまたは外付けマルチベイにオプティカル ドライブを装着して使用する必要があります。

お使いのコンピュータにはマルチメディア ソフトウェアがプリインストールされています。一部のモデルでは、付属のオプティカル ディスクに追加のマルチメディア ソフトウェアが収録されています。

コンピュータに搭載されているハードウェアおよびソフトウェアによっては、次のマルチメディアに関する操作がサポートされています。

- オーディオ CD、ビデオ CD、オーディオ DVD、ビデオ DVD、インターネット ラジオなどのデジタル メディアの再生
- データ CD の作成またはコピー
- オーディオ CD の作成、編集、および書き込み
- ビデオまたはムービーの作成、編集、および DVD またはビデオ CD への書き込み

注意：　情報の消失やディスクの損傷を防ぐために、次のガイドラインに従ってください。

ディスクに書き込む前に、コンピュータを、安定した外部電源に接続してください。コンピュータがバッテリ電源で動作しているときは、ディスクに書き込まないでください。

ディスクに書き込む前に、使用しているディスク ソフトウェア以外は、開いているすべてのプログラムを閉じてください。

コピー元のディスクからコピー先のディスクに、またはネットワーク ドライブからコピー先のディスクに直接コピーしないでください。まずコピー元のディスクまたはネットワーク ドライブからハードドライブにコピーし、その後でハードドライブからコピー先のディスクにコピーしてください。

ディスクへの書き込み中にキーボードを使ったり、コンピュータを移動したりしないでください。書き込み処理は振動の影響を受けやすいためです。

注記：　コンピュータに付属のソフトウェアの使用方法について詳しくは、ソフトウェアの説明書を参照してください。説明書はディスクまたは該当するプログラム内のヘルプ ファイルとして提供されます。ソフトウェアの製造元の Web サイトから説明書を入手できる場合もあります。

プリインストールされたマルチメディア ソフトウェアを開く

1. **[スタート]→[すべてのプログラム]**の順に選択します。
2. 起動するプログラムをクリックします。

ディスクからのマルチメディア ソフトウェアのインストール

1. ディスクをオプティカル ドライブに挿入します。
2. インストール ウィザードが開いたら、画面上のインストール手順に沿って操作します。
3. 画面に指示が表示されたら、コンピュータを再起動します。

マルチメディア ソフトウェアの使用

1. **[スタート]**→**[すべてのプログラム]**の順に選択し、使用するマルチメディア プログラムを開きます。たとえば、Windows Media Player でオーディオ CD を再生する場合は、**[Windows Media Player]**をクリックします。

注記： プログラムがサブフォルダに存在する場合もあります。

2. オーディオ CD などのメディア ディスクをオプティカル ドライブに挿入します。
3. 画面の説明に沿って操作します。

-または-

1. オーディオ CD などのメディア ディスクをオプティカル ドライブに挿入します。

   [自動再生]ダイアログ ボックスが開きます。

2. タスク一覧でマルチメディア タスクをクリックします。

再生の中断の予防

CD や DVD の再生が中断される可能性を低減するには、以下の点を確認してください。

- CD または DVD を再生する前に作業を保存し、開いているすべてのプログラムを閉じます。
- ディスクの再生中は、ハードウェアの着脱を行わないでください。

ディスクの再生中にハイバネーションまたはスリープを開始しないでください。開始すると、続行するかどうかを確認する警告メッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示されたら、**[いいえ]**をクリックします。**[いいえ]**をクリックすると次のようになります。

- 再生が再開します。

  -または-

- マルチメディア プログラムの再生ウィンドウが閉じます。CD または DVD の再生に戻るには、マルチメディア プログラムの**[再生]**ボタンをクリックしてディスクを再び起動します。まれに、プログラムを終了してから再起動しなければならない場合があります。

DVD 地域設定の変更

著作権で保護されているファイルを使用する多くの DVD には地域コードがあります。地域コードにより著作権は国際的に保護されます。

地域コードがある DVD を再生するには、DVD の地域コードが DVD ドライブの地域の設定と一致している必要があります。

△ **注意：** DVD ドライブの地域設定を変更できるのは 5 回までです。

5 回目に選択した地域の設定が DVD ドライブの最終的な設定になります。

ドライブの地域の残り変更可能回数が DVD 地域タブの残り変更回数ボックスに表示されます。このフィールドに 5 回目に指定された値が最終的な設定になり、以後変更はできません。

オペレーティング システムで設定を変更するには、次の手順で操作します。

1. **[スタート]**→**[コンピュータ]**→**[システム プロパティ]**の順に選択します。
2. 左側の枠内で、**[デバイス マネージャ]**をクリックします。

   注記： Windows には、コンピュータのセキュリティを高めるために、ユーザ アカウント制御機能があります。ソフトウェアのインストール、ユーティリティの使用、Windows の設定変更などのタスクでは権限やパスワードが必要になる場合があります。詳しくは、Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

3. **[DVD/CD-ROM ドライブ]**の横の「＋」記号をクリックします。
4. **[DVD/CD-ROM ドライブ]**を右クリックし、地域の設定を変更する DVD ドライブを右クリックして、**[プロパティ]**をクリックします。
5. **[DVD 地域]**タブで地域を変更します。
6. **[OK]**をクリックします。

著作権に関する警告

コンピュータ プログラム、映画や映像、放送内容、録音内容などの著作権により保護されたものを許可なしにコピーすることは、著作権法に違反する行為です。このコンピュータをそのような目的に使用しないでください。

索引